

弘前のマルマン開発 健康管理アプリ

県職員対象に性能検証

3カ月から意識向上を期待

弘前市のマルマンコンピュータサービス(長内睦郎社長)が開発した健康管理アプリ「健康物語」について、県職員を対象にしたアプリ検証サービスが12月から3カ月間実施される。参加者には腕時計型の情報端末「アップルウォッチ」が貸し出され、アプリの性能検証や県職員の健康に対する意識向上を図る。

(柴田賢)

アプリは弘前大学C OIプロジェクトや県との共同開発で、日々の体重、食事、歩数と

アプリはiOS・アンドロイド版の法人・個人用を9月までに作製、順次公開された。同社によると現在、法人向けは県内外3社が利用しており、個人向けのダウンロード数は1200〜1300件。また、県全体で使いたいという申し出もあるという。



アプリは弘前大学C OIプロジェクトや県との共同開発で、日々の体重、食事、歩数とアプリとアップルウォッチを連動することで、簡単に入力でき、脈拍や心拍数も計測できるようになる。

検証は県職員50人を対象に実施。職員の健康増進意識を高めるほか、意識の変化やアプリの使用感など、検証期間終了後のアンケート結果を同社にフィードバックする。

20日に長内社長らが県庁を表敬訪問し、三

長内社長(右から2人目)らが県庁を表敬訪問し、三村知事(右)にアプリの使用方法などを説明した

村申吾知事にアプリの使い方などを説明。長内社長は「未病」に向けたツールとして使ってもらい、本人が(健康状態を)自覚するきっかけになれば」と話した。